

[赤嶺奈津江議員 登壇]

○6番 赤嶺奈津江君 今回、3問質問させていただきますけれども、一旦全部質問させていただいて、再質問から一問一答でさせていただきたいのでよろしくお願いいたします。

1. 北丘小学校の車両乗り入れ可能道路について(1)北丘小学校は、正門以外車両乗り入れができない。正門から校舎までの通称にこここ坂は距離もあり、こここ坂で事故等あれば給食配送車や救急車等の緊急車両も入れなくなる。対応するためにも車両乗り入れ可能な道路を造るべきだと思うが、当局としてはどう考えているか。(2)北丘小学校は、避難施設としても指定されている。町長はこの状況をどのように捉えているか。また、対応するべきだと思うがどうか。

2. 幼稚園の3年保育の可能性を問う。(1)昨年度より幼稚園での2年保育が始まった。子ども・子育て支援に力を入れ、待機児童解消に努めているが、制度改正により認可保育園に入園可能な対象者も増えたこともあり、待機児童は減少していないと思う。そこで、幼稚園での3年保育の可能性はあるか、検討しているかを問う。(2)2年保育が始まり、朝夕の送迎車両の増加があると思うが、それは2年保育実施前に予想していたか。

(3)3年保育を検討しているのであれば、課題等はあるか。(4)幼稚園で106人増と報告がありましたけれども、各園の内訳と要因をお伺いいたします。

3. 公文書館付近の歩道整備について問う。(1)公文書館前から新川コミュニティセンター付近に向かう途中で歩道が途切れている所があるのですけれども、そこへ横断歩道及び標識等の設置を早急に行うよう行政懇談会にて要望しましたし、以前に質問もさせていただきました。その後の進捗状況をお伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長 宮城清政君 教育長。

○教育長 赤嶺正之君 赤嶺奈津江議員のご質問にお答えいたします。質問事項1. 北丘小学校の車両乗り入れ可能道路についてでございますが、(1)と(2)のご質問は関連しますので一括して答弁をいたします。新たに設置する乗り入れ可能な道路については、必要な道路と認識はしております。今後、他の学校の状況や町全体の事業の優先度を含めて検討してまいります。

質問事項2. 幼稚園の3年保育の可能性を問うのご質問にお答えいたします。(1)と(3)は関連いたしますので、一括して答弁いたします。平成28年度に公立幼稚園を3歳児から5歳児まで受け入れる公私連携型認定こども園への移行について検討を行いました。その結果、認定こども園に行こうするメリットとしては、夏休み等(長期休暇)の預かり保育の実施、早朝保育の実施、土曜日の預かり保育の実施、専任園長の配置、給食の提供であり、本町の幼稚園では全て実施していることや3歳児保育を実施するには幼稚園の施

設に空きがなく、増築など施設整備が必要となることなどの課題があり、現段階では幼稚園での3年保育実施については検討いたしておりません。

(2)のご質問でございますが、2年保育実施前には送迎車両の増加について想定はしておりました。各幼稚園では、5歳児の保護者を中心に徒歩登園を呼びかけております。

(4)のご質問でございますが、各幼稚園の園児数を平成28年度と29年度で比較しますと、南風原幼稚園23人増、津嘉山幼稚園51人増、北丘幼稚園41人増、翔南幼稚園9人減となっております。増の要因は、園長を中心とした幼稚園運営が質量ともに向上したことだと認識いたしております。以上でございます。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項3点目の公文書館付近の歩道整備について問う(1)についてお答えします。標識の設置については、公文書館と協議をしたところ町道258号線からは入口専用として使用することであり、公文書館構内からは出口ではないことを標識あるいは路面標示等により注意喚起をし事故防止については対応するというものであります。また、横断歩道については、所管の与那原署に確認をしたところ、交差点に近接する近い場所については、交通安全上設置は難しいということであります。以上です。

○議長 宮城清政君 6番 赤嶺奈津江議員。

○6番 赤嶺奈津江君 ありがとうございます。それでは一問一答で質問させていただきたいと思っております。北丘小学校の車両が通行可能な道路を設置すべきではないかということは、以前にも質問しまして検討しますという答弁をいただいているのですが、その後からずっとその進捗状況が見えないのですね。実際、優先順位等もあると思うのですが、これだけ人口も増えてきて高速のインターも3つあるということで南風原町はかなり交流人口と言いますか他から入ってくると車も多いですし、通りがけということで、何か災害時等は避難場所となっている北丘小学校に避難する可能性があるわけですね。また、台風時に途中で子どもたちを帰したいというとき、保護者に呼びかけをして迎えに来てもらったりということもあるのですが、その際、下の校門側から大渋滞をして一般の方にも迷惑をかけるぐらいの渋滞でした。台風時ですからやはり保護者も歩いて迎えにとはしないわけですね。職場から子どもを迎えにというときもかなり支障を来していて、本来避難場所でもありますし、早急にこれは対応すべきだと思うのです。以前、質問した後から本当に検討されているのかと思うものですから、事業の優先順位等あると思いますがやはり避難施設としても設置しているわけですから早急に対応すべきだと思いますがいかがでしょうか。この件については、以前、町長も認識していると答弁をいただいておりますので、ぜひ町長から答弁をいただきたいと思っております。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 答えします。奈津江議員がおっしゃるこの件については、私も前から北丘小学校に卒業式、入学式で案内の時いつも感じていたのは、にこにこ坂一本であること、またこの小学校は避難場所でもあることですし、もし北丘小学校にこにこ坂の幼稚園側斜面が崩れた場合、通行が不可能でしょう。こうなると避難場所としても厳しい、また校舎に取り残された先生方、子どもたちが避難するに相当厳しい状況に追い込まれることを考えましたら、何が起こっても迂回できるような場所を検討すべきではないかと、以前教育担当にも申し上げておりました。その中で担当は正にどこからがいいのか、駐車場側教員室前から北丘ハイツの方向に斜面を利用して抜けることはできないのか。北丘ハイツの了解も得ていかなければいけないと思うのですが、これも考えてぜひ検討したほうがいいと、にこにこ坂が通れなくなったらパニックになる、そういうことも考えたら迂回路について何もないうちに考えておいたほうがいいと申し上げております。その時、担当の皆さん方からは、新川から北丘小学校に行く階段も厳しい状況だとあり、これに対しても前から斜面側をいろは坂のかたちでもいい、何らかのかたちで検討してもらいたいということで今回工事発注がされそこから登校ができるようなかたちになります。こういう段階を踏まえてという、一気にというのは厳しいので段階的に検討させてもらいたいということがあったとご理解をお願いしたいと思います。これに対しては、避難場所として設置したからには迂回路を造っていくことも義務だと思っております。教育委員会もその時点において理解して、段階的に進めていこうという話しはしておりますのでそのようにやっていきたいと思っております。

○議長 宮城清政君 6番 赤嶺奈津江議員。

○6番 赤嶺奈津江君 ありがとうございます。前向きなご答弁をいただいて、早めに対応できるよう期待をしますけれども、避難場所というのは緊急を要する所であり、豊見城も市役所はその予算を活用して移動するということですので、いろんな予算の活用法があるかと思えます。ぜひ検討していただきたいと思えます。実際、日ごろの車両乗り入れは禁止されていますので特に問題はないと思うのですが、沖縄は特に台風時にはすごい渋滞もして、また災害以外に犯罪等が近くであったときには保護者に迎えに来てくださいということで、そのときもやはり車になります。そういったとき、一方通行で乗せたらすぐに出せるというように、あと1つの迂回路があれば可能になってくるかと思えます。現在は本当に渋滞して、迎えに来たけれども学校から出ることができないとかそういう状況もあるものですから早めに対応していただきたい。学校施設としてだ

けではなくて、避難場所としても本当に大事な所でもあると思いますのでぜひ早めのご検討と実施をお願いしてこの件は終わりたいと思います。

問2. 幼稚園の3年保育の可能性を問うということで、答弁では検討していないとありましたが、民生部のこども課とも係わるのですが、小規模保育をする際には0歳から2歳までが保育可能、その後の受入れ先がないと開園することができない。そういう中で引き受け手の保育園、連携してくれる保育園がなかなかないと聞いております。小規模保育を活用して待機児童を減らそうという前提もありましたので、幼稚園でも3歳からの保育、3年保育を早期に検討したほうがいいのではないのでしょうか。なかには余裕のある幼稚園もありますよね。全部が全部3歳児保育ではなくても、試行的にやることも検討するべきではないかと思うのですけれども、そういったところも全然検討されていないのか確認したいと思います。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 先ほど教育長からも答弁がありましたとおり、民生部と教育部とで連携して平成28年度に検討いたしました。その中で那覇市とか近隣の他市町村が認定こども園に移行しまして3歳児を受け入れる体制を敷いているのは先ほど申しましたメリットがあるということで、それを実施するために移行ということになっています。しかし、南風原町ではすでに幼稚園で実施していることから現行の5歳児、4歳児保育を逆に強化していこうと、更に進めていったほうがいいのではないかという結論に達したために、3歳児保育については検討しないということであります。

○議長 宮城清政君 6番 赤嶺奈津江議員。

○6番 赤嶺奈津江君 私の質問の趣旨とはちょっと違うかなと思います。私が言いたいのは、3歳児が空いてしまいますよということなのです。小規模保育で0歳から2歳まで保育できます。幼稚園では4歳、5歳しかしません。では3歳児はどうするのか、そういうことです。小規模保育から卒園しても3歳児は行き先がないわけですね。そういうところで、待機児童の解消につなげるためには、3歳児保育も検討するべきではないか。充実は分かるのです。確かに園長先生も来て、給食もあって、延長保育もかなり延びて、土曜日保育もあるし夏休みもできると、そういうところは理解しますけれども、3歳児保育をどうするのかというところで3年保育を検討しないのかということなのです。その点についてどうお考えでしょうか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えします。小規模保育は2歳までということになりまして、連携施設と連携して3歳児以降の保育になりますが、本町では今2園の小規模保育所がございます。計画ではまたあと1園増えまして3園になります。この3園の小規模保育から卒園していきます3歳児につきましては、今整備しております認可保育園含め、今年度で公立も含めて14園、やまびこ保育園も整備されると15園になりますので、この町内の公立含めた認可保育園その全体で吸収していけるものと考えております。

○議長 宮城清政君 6番 赤嶺奈津江議員。

○6番 赤嶺奈津江君 ありがとうございます。受入れ可能になっていく前提だとのことですが、実際、待機児童が170名いますよね。この待機児童の年齢割合、何歳児が一番多いのかその割合を教えてください。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 待機児童が一番多いのは1歳児、2歳児になります。

○議長 宮城清政君 6番 赤嶺奈津江議員。

○6番 赤嶺奈津江君 ということは、小規模保育園をもっと増やしても受入れ先として足りないのではないかと私は思うのです。1園増やしてもその170名の中から1歳児、2歳児を受け入れして、卒園した後は保育園には0、1、2歳、3歳児までいるわけですよ。小規模をやろうと思っても、これだけの待機児童を減らすのに役割として保育士の数、園の数、それからいくと小規模保育を増やして幼稚園で3歳児受け入れを可能にするほうが早いのではないかと。31年度には解消しないといけないわけですよ。その前提であれば、小規模を増やして0、1、2歳児を受け入れ可能にしていくほうが早く、また公立の園で3歳児保育をやっていくほうが早いと思いますけれども、那覇でも保育士が足りなくて、定員は多くしたものの保育士がいなくて受け入れができないといった所もありますし、いろんな可能性の中で3歳児保育は大きな課題だと思いますがどのように捉えていますか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 先ほど答弁しましたように、今後も認可保育園整備、現在も整備中ですし、今年度中に新しく2園が開園しますし、次年度も4月には1園開園します。その認可保育園の定員増によって0歳から1歳、2歳、3歳と待機児童が解消できるものだと考えておりまして、小規模保育につきましても町のこの量の見込みを出しまして計画

しております子ども・子育て支援事業計画に沿って現時点で小規模保育は3園と計画しております。通常の保育園と小規模保育、この数で待機児童は解消していけると考えております。

○議長 宮城清政君 6番 赤嶺奈津江議員。

○6番 赤嶺奈津江君 人口の伸びが第五次総計の時にもありましたが、若い世代の増えてきた率とか見てもかなり他所より多かったと思うのですけれども、そのままの状態でもいいかどうか。実際に、沖縄は本土に比べると出生率は高いのですよね。特に南風原とか豊見城、与那原は人口の伸び率が高いので子どもの増加率もかなり大きくて、また今、津嘉山も区画整理が入っていますがそこに若い世代が入ってくると更に子どもの数も増えていくのではないかと思います。今現在より人口も増えますし子どもの数も増えると思いますけれども、こういったところからすれば幼稚園の在り方と言いますか、3歳児保育まで検討したり研究したりやるべきだと思いますがどうでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 先ほども答弁したとおり、3歳児保育につきましては去年検討しております。その中で、やる場合は施設の改築が必要だという課題もあることから、現行の体制である4歳、5歳児の保育で幼稚園は機能強化を図っていきたいと考えております。

○議長 宮城清政君 6番 赤嶺奈津江議員。

○6番 赤嶺奈津江君 現行のままということなので、これ以上言っても無理かという雰囲気ではありますけれども、子どもたちが認可園に申込みをするとき、継続で同じ園に入ることのほうが多いかと思っておりますけれども、小規模保育を検討する際にはやはり多くて2回以上園が変わる可能性が出てくるわけですよね。子どもにとっては精神的負担にもなるし、親にとっても負担になると思います。子どもが新しい環境に慣れるというのは大変な苦勞ですし、親も大変ですので、そういう環境を整えていくというのは、やはり私たちの責任だと思います。3歳児保育についてはあまり移動がないような前提、実際に人数が多くなってくると幼稚園で4歳、5歳児を幼稚園でやっていますから幼稚園に行って、1年間保育園にいてまたすぐ幼稚園に行くと、1年でやっと慣れてくるころにはまた移動というふうになるわけです。子どもたちは結構きついのですよね。保護者も泣きながら置いて行くというぐらいのときもありますから、新しい体験を何回もさせるより慣れて楽しい、行って楽しい所だと思えるような環境を作るべきだと思います。ですから今回、必要ない

と判断された理由は、ハード的な部分が大きいのと思いますけれども、やはり子どもたちの心のことも考えるべきだと思いますので、ぜひ検討するべきだと思います。この件についてはぜひ検討をということでお願いして次にいきたいと思います。

問2(2)です。送迎車両についてですけれども、雨降り時には南風原小学校前でも駐車して子どもを下してということも多いですし、北丘小学校では幼稚園生だけ上に上がってということもありますし、たぶん他の幼稚園でも同じ環境ではないかと思います。道に面して路駐というかたちになっていますけれども、今後、県道中央分離帯が開けられたりした際にかなり支障になると思いますので、管理道路等を利用したり下ろせるような環境にしていけないとかなり地域に迷惑もかけるかと思います。北丘は先ほど質問しましたけれども、北丘も通路を開けていただければ、下ろしてそこから出ていく環境が整うのかと思って質問をしました。予想していたのであれば、今後どういうふうに対策をするのか。保護者に言っても保護者は例えば犯罪があった後だから心配でとかいろいろなことを考えると連れて行くということになりがちなのですね。徒歩登園だけではやはりかなり厳しい部分があるかと思うので、この登園については4歳児が入園当初はまだ3歳児で保護者がついていないとできないとか、保護者も仕事の都合上来るまでしかできないという可能性も出てきますし、そういったことでその環境を整えることは大事なことだと思いますので、ぜひ通路の関係というのは早めに対応をお願いしたい。私は南風原小学校をよく見るものですからお話しするのですが、園の前で下ろす環境を整えないと、郵便局の隣でもありますので大きな搬入車両が入れずに右往左往している場面も見かけます。そういったことで検討するべきだと思いますけれども、どう考えていますでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 幼稚園、小学校、中学校もそうなのですが、各学校とも南風原町においては「はえばるがんばる登校」を推進しております、できるだけ徒歩登園、徒歩登校をお願いしているところであります。しかし、現実に雨降りなど車両での登園登校があるものですから、各学校において工夫を凝らして取り組んでいるところでありますが、南風原幼稚園・小学校におきましては先日総務課に協力をお願いしまして農協前の駐車場を農協がオープンするまでの時間貸してもらいたいということで借用をお願いしているところでございます。また他の所でもそういった乗り入れについて改善できないかどうか、検討しているところであります。ですから、できるところから取り組んでいきたいと考えています。

○議長 宮城清政君 6番 赤嶺奈津江議員。

○6番 赤嶺奈津江君 ありがとうございます。先ほど言いました3歳児保育も検討してもらえないかということでやりましたけれども、それが実施された際にも考えられるものですからこの質問をさせていただきました。登園についてはいろんな課題も出てくると思いますので、設置したから終わりではなくて、ぜひ確認をしながらやっていただきたいと思います。

次です。問4. 幼稚園の人数増ということで各園とも翔南以外は増ということですがけれども、申込み人数が増えて全員が入れているのか、それともお断りしないといけない状況もあるのか確認したいと思います。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 幼稚園の入園に関しましては、4歳児、5歳児ともに申し込んだ方は全て受け入れています。

○議長 宮城清政君 6番 赤嶺奈津江議員。

○6番 赤嶺奈津江君 ありがとうございます。全員受け入れることが可能になっているとのことですが、空きと言いますかまだ余裕があるのか、これで定員ですという状態なのかどうでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 現在の状況につきましては、南風原幼稚園で1教室だけ空いております。しかし、他の園につきましては、定員が30名なのですが定員を超して配置している所もあり、そういった園については加配教諭を充てて対応しているところであります、他の園については空き教室はありません。

○議長 宮城清政君 6番 赤嶺奈津江議員。

○6番 赤嶺奈津江君 ありがとうございます。今、4歳児で保育園に行っている子どももいると思いますけれども、どんどん幼保の形が変わってきて、小規模も始まって増えるということですし、4歳児保育の増があった場合、今後どう対応するのかお聞きしたいと思います。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 現在は先ほど答弁しましたとおり、加配教諭を充ててその定員オーバーについても対応しているところではありますが、今後更に増えてくるとなると教師の増も検討しなければいけないかと考えております。

○議長 宮城清政君 6番 赤嶺奈津江議員。

○6番 赤嶺奈津江君 ありがとうございます。早めに今後どのような状況になっていくのかアンケート調査等も含めて、小規模保育のあとにはどのような保育体系が求められているのか、5歳児まで保育園にいる子もいますけれども、その保護者はなぜ幼稚園ではないのか。兄弟もいて送迎1カ所が楽だとかいろいろな理由があるかと思っておりますけれども、保護者からの聞き取り調査、今後どのようなかたちを求めているのか調査は必要だと思います。私からすれば、小規模があれば幼稚園の3年保育も検討して欲しいかどうかを保護者に聞いてみるべきではないかと思っております。自分たちだけの判断ではなくて、地域、町民がどのようなかたちを求めているのか確認をするべきだと思いますけれども、そのような予定はありますでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 先ほどから答弁していますとおり、3歳児保育については、教育委員会としては予定ございません。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 町民のアンケートという部分では子ども・子育て支援事業計画を立てる際に1度取っております。今年度は、この子ども・子育て支援事業計画の中間見直しの年となりまして、この3年前に取ったアンケートも参考にしながら今後の量の見込み等、先ほどおっしゃってました人口の推計、そういったものを見通して今後の施設整備等、この計画にどう反映させていくか取り組んでいくわけでございます。その3歳児保育につきましては、先ほども申し上げますように他の認可保育園で吸収できるものと、そして更に幼稚園が4歳児に拡充したことによりまして実際には4歳児、5歳児の保育所での定員の空きが出てきております。これは保育園にそういう効果が出てきているということです。そういったことから、徐々にその4歳児、5歳児で空きが出た部分をできるところから0、1、2、3歳児受入れの数を増やしていく。ここでできるところからと申しますのは、建物の構造上ですね。間仕切りがあるとかいろいろ施設によって違いますので、できるところから保育所側と相談をして、0、1、2、3歳児の定員を増やして

いく。そういった取組もしていきますので、可能な限り小規模を出たお子さんは3、4、5歳と同じ施設に行けるとかそういうふうになれるようにしていきたいと思います。

○議長 宮城清政君 6番 赤嶺奈津江議員。

○6番 赤嶺奈津江君 ありがとうございます。私は検討して欲しいということではなくて、ちゃんと聞き取りはするべきだと話ただけです。検討は中でやるべきものであって、やはり聞き取り調査は大事なことだと思いますし、町民が求めている方向とは全然違う方向に行ってしまうのは意味がないわけですよね。ですから、ちゃんとニーズを満たしているのか、町民のニーズはちゃんと分かっているかという確認の意味でもそういった聞き取りだとかアンケートはするべきではないかと思います。子どもたちが不安な状態で何回も移動することがないように、また幼稚園の在り方も専任園長を置いて給食もあって、2時まで保育をやって、それから延長保育があり夏休みも土曜日もということで先進ではあると思いますけれども、常に保護者が働いていける、そしてその働きで町に税金も入ってくるわけですから、そういったあと押し的なものも大事だと思います。安心して働ける環境づくり、それが後になって南風原町に大きく返って来ると思いますので、ぜひ子どもたちの保育環境、幼稚園の環境をちゃんとしていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

次に3点目、公文書館付近の歩道整備ということで以前にも質問をさせていただいています。公文書館前から新川コミュニティセンター向けに行くところとすぐ入口が設置されています。こちらは県道側が整備中で開けられてはいないのですが、開けられた後にここが入口になって車両は斜めに入ってくるかたちになるものですから、ちょっと普通の入口とは違うのですね。出口と勘違いされないかというだけではなくて、歩行者からすれば真っすぐ歩いて道を渡るものから、車が曲がって入ってくるのが見えなかったりするのですね。人だけではなくて、車からもちゃんと注意を向けられるようなかたちではないと危険、かなり危ないと思うのです。特に子どもたちは、学校からの帰りに結構走ってあの通りを渡ったりするものから、出来上がってからではなくて早めに対応しておいて注意喚起をするようにしておかないと危ないと思います。拡幅はされていますけれどもガードレールで狭めて県道を設置しているものから、歩行者が飛び出して全然気付かないとかそういったこともあるものから、早急に対応してもらいたいと思います。こちらを見ると、いつという設置の状況についてないものから、いつごろやるということがあったのかどうか。県道開通をしてきれいにしたあとなのか、すぐに設置する予定があるのかを確認したいと思います。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城敬宝君 お答えいたします。公文書館の新川コミュニティセンターに向かって開いている門扉のある箇所ですけれども、これについては公文書館への入口、与那覇側から来た場合の入口として門扉を設置しているということでもあります。そういうことで、道路の開通までは開けないということにしているようではありますが、イベントがある場合には開けているようです。そういうことがあって、公文書館の総務課長にお話をしたところ、地域から危険だということであれば早急に対応したいというような回答をいただいております。その間、その対応ができるまで門扉は開けないというようなことも返事をいただいておりますので、早急に対応するものだと認識しております。

○議長 宮城清政君 6番 赤嶺奈津江議員。

○6番 赤嶺奈津江君 ありがとうございます。地域からだいぶ前から声が上がっていて、以前は工事中ということもあって余計に危険ということもあったのですが、新川は県道を挟んで両側ありますが、人口増がかなりありまして子どもたちの比率も高くなっているものですから、安全面からも早期に対応するべきではないかと思います。要請について自治会からもあると思いますが、町からも早めの対応を県に要請して欲しいと思います。以上、要望して終わりたいと思います。ありがとうございました。